

平成18年1月



「静岡地方・家庭裁判所浜松支部、浜松簡易裁判所庁舎」

静岡県西部に位置する浜松市に、平成17年11月、浜松裁判所（静岡地方・家庭裁判所、浜松簡易裁判所庁舎）が完成しました。

JR浜松駅前（アクトシティ）から続くアクト通りに隣接する官公庁街区の一角において、区画整理事業により開発された新しい街の核となる施設として、第一歩を踏み出しました。

巻頭言 「安全・安心」	2
平成17年度中部地方整備局営繕 フォーラム	3
～完成しました～静岡地家裁浜松支部・ 浜松簡裁庁舎～	4

愛知県立豊田東高等学校の建設について ～移転から始まる新しい学校へ～	6
「中部の公共建築 写真コンテスト」 入選作品決まる 公共建築の日記念事業 講演会 「レイコ流！スローライフのすすめ」	8



巻 頭 言

「安全・安心」

静岡営繕事務所長

伊藤 文也

新年明けましておめでとうございます。お健やかな新年をお迎えしたこととお喜び申し上げます。

昨年はJR西日本の列車脱線事故、アスベスト、談合問題、構造偽造など社会を大きく揺るがす事件が発生し年が明けてもまだ強烈な余韻が残ります。偶然にも国土交通省関連のものが多く、社会面の記事におけるベスト10上位ランキングはまちがいないところだと思います。また、それ以外にも61万株発注や小学生の殺傷事件等、驚愕する事が相次ぎ発生しました。

いずれも「国民の安全・安心の確保」と言ったミッションを果たせなかったことは事実で誠に残念なものであります。一度落ちた信頼を取り戻すのには相当の時間と費用がかかるし、なかなか信頼は取り戻せないものです。米国産牛肉輸入の再開や温風ヒーターの欠陥などこの種の話題が尽きないのはなぜだろうか。「安全・安心」という視点はどの分野においても第一優先でなければならないはずなのに実に粗末にされている感じがします。効率重視ということだけを考えて物事に当たってきたわけではないのでしょうか、この様な結果を見ると「安全・安心」が実に軽視されたと言わざるを得ないのではないだろうか。

さて、我々の仕事はどうでしょうか。与えられたミッションを果せるようなマネジメントを実行しているだろうか。自己満足に浸っていないだろうか。今一度、国民の安全・安心という視点にたったものかを問うて見る必要があるのではないのでしょうか。今までの経験に基づく仕事のやり方は我々サイドからみれば「安全・安心」なものであるが、視点をずらして見た場合本当にそうなのか、日々の各業務においてこの事を問いかけをしながら進めて行くことが大切ではないかと思います。たとえば、ある職員が「この仕事をしなくては安心できない」と言うのは自分が安心できないのか、国民が安心できないのかで大きく異なる。まったく必要のない仕事を漫然と行い、自分だけが安心し満足感を覚える場合は単なるムダに過ぎないのではないのでしょうか。パワーを効率的に本当に必要な部分に振り向ける事がミッションを果たすのには必要なことだと感じます。効率と安全・安心は両立しなければならないのは誰もが知っていることですが、昨年の事件はいずれもそれが欠落していたように思われて仕方がありません。

最後に、昨年の代表漢字は「愛」と言うことでしたが、「愛」の中には「安全・安心」も含まれるはずで、昨年だけでなくずっと継続して欲しい漢字だと思います。また、本年は途中でチャンネルを変えることなく、ゲーム終了までうまいビールを飲みながらがナイター中継を堪能したい。原監督の「巨人愛」が成就することを望みます。原よ、顔はもう十分阪神に勝っている、余裕で行けそして私に「安全と安心」を与えたまえ。

本年もどうか本当によい年となるように、また皆様方のますますのご健勝を祈念します。

平成 17 年度中部地方整備局営繕フォーラム開催

中部地方整備局営繕部では、平成 17 年 10 月 28 日に名古屋合同庁舎第 2 号館において、当局営繕部職員及び本省・各地方整備局職員 74 名の参加で、「平成 17 年度中部地方整備局営繕フォーラム」（以降中部営繕フォーラム）を開催しました。

今回の中部営繕フォーラムは、平成 16 年 7 月に竣工した刈谷地方合同庁舎を対象施設として、顧客満足度調査（以降 C S 調査）の結果検証をふまえた上で、合同庁舎整備のあり方を探り今後の施設整備に役立てていくことを目的としています。

刈谷地方合同庁舎は J R 刈谷駅から徒歩 3 分に位置し、税務署・法務局・労働基準監督署が入居している施設でその整備にあたっては、車窓からの景観や近隣への圧迫感に配慮し、階段状にセットバックした形状を採用しています。

そして屋上緑化を行うと共に、高齢者や障害者に配慮したバリアフリー対策、各種省エネルギー対策の実施や太陽光発電設備を設けた地球環境に優しい庁舎を目指し建設したものです。

中部営繕フォーラムに先立って入居職員及び来庁者のご協力で実施した C S 調査の結果は、施設管理担当の方に説明し、ご不満な箇所を重点的に案内して頂きその状況を直接お聞きしました。

その結果主なものとして、次のようなご意見を頂きました。

- ・ 立体駐車場の駐車幅をもう少し広くし、駐車しやすい配慮がほしい。
- ・ 駐車場から庁舎にいたる案内サインがわかりにくい。
- ・ 職員のリフレッシュ室において、設計時の想定と実際の使われ方に相違があり効率的でない。
- ・ 空調設備の冷温熱環境にアンバランスがある。
- ・ 書庫等の収納スペースの効率をもっと高める配慮がほしい。他

今回の C S 調査で得られたご意見は、今後の合同庁舎整備に反映させると共に、刈谷地方合同庁舎についても改善が可能なものは改善案を作成し、入居官署の施設管理担当の方に説明の上対応を協議していきたいと考えています。



刈谷地方合同庁舎 R C 造一部 S 造 6 階建、延べ 6912 m²



H17 年度 中部地方整備局営繕フォーラム

～完成しました～

～静岡地家裁浜松支部・浜松簡裁庁舎～

1. はじめに

現在区画整理中である JR 浜松駅北東部の中心地区に、平成17年11月、「浜松裁判所」が完成しました。

2. シビックコア地区にて・・

この地区は、平成 10 年に浜松市シビックコア地区に承認され、「静岡県浜松総合庁舎(H1 完成)」、「浜松市情報センター(H9 完成)」、並びに「浜松地方合同庁舎(H17年度末工事着手)」、および「シンボルガーデン(同)」と共に、一団地の官公庁街区として整備されております。このたび、国有地の一角に「浜松裁判所」がオープンすることとなりました。

3. 街並みに配慮して・・

地区メインロードである「アクト通り」に対して圧迫感が少なくなるよう、「裁判所」を北東角に配置しました。将来、合庁完成時に、「東ふれあい公園」、「アクト通り」、「シンボルガーデン(将来計画)」へ人の流れが繋がる様な配置計画としました。

裁判所庁舎は、三段構成かつ左右対称の立面とし、裁判所として品格あるデザインを表現しました。外壁色は、アクト通り沿いに並ぶ建物を調和する色彩とし、街の人々の意見も反映して色彩計画を決定しました。



アクト通り

シンボルガーデン

4. 裁判所庁舎として・・・

裁判所庁舎として、機能性の確保、プライバシーの保護に取り組みました。

合議法廷、単独法廷、ラウンドテーブル法廷等様々な用途に応じた法廷を2階に配置しました。また、法廷床には OA フロアを採用しました。

低層階には、地方裁判所及び簡易裁判所の窓口部門、並びに道路交通部門等を配置しました。高層階には、家庭裁判所等を配置し、プライバシーの保護に取り組みました。

再生タイル、ペアガラス、屋上緑化等を用いて、グリーン庁舎に基づく環境負荷低減を試みました。

サイン計画では、階毎で色分けをし、ブラジル人が多い浜松の地域性にちなんで、ポルトガル語を一部採用して、ユニバーサルデザインを試みました。

5. こんな事もやりました・・・

総合学習の一環として、浜松市内の小学校3校(4年生約140人)を対象に、現場探偵団を開催しました。「庁舎内のユニバーサルデザイン(UD)を探そう」をテーマに、工事の終盤段階の9月と11月に2回行い、児童の建物に対する理解や UD の発見及び福祉に関する学習の場を提供しました。

☆ 建築データ ☆

工事場所;浜松市東田町 132-1/敷地面積;1,900㎡

用途地域;近隣商業・商業/防火地域;準防火

その他地域;シビックコア地区・東第一地区計画・東第一団地の官公庁施設

建築面積;1,033㎡/延床面積;6,315㎡

構造規模;鉄骨鉄筋コンクリート造 5階地下1階建

外 装;せっき質タイル張り

工 期;平成16年3月～平成17年11月

入居官署;静岡地方裁判所浜松支部;静岡家庭裁判所浜松支部、;浜松簡易裁判所、浜松検察審査会

設 計;中部地方整備局営繕部、(株)日本設計、

監 理;中部地方整備局 静岡営繕事務所

施 工;建築 三井住友建設(株);電力 六興電気



(株);通信 明光電気(株); 空調 日管(株);衛生 (株)
エクノスワタナベ;EV 東芝エレベーター(株)

(静岡営繕事務所

赤池 亨)

愛知県立豊田東高等学校の建設について

～移転から始まる新しい学校へ～

1. はじめに

現在の豊田東高等学校は、大正13年(1924年)創立の^{ころも}挙母高等女学校以来、約80年の歴史を有する県下唯一の県立普通科女子高校です。このたびの豊田東高等学校建設工事は、『豊田市文化ゾーン整備基本構想』による豊田市からの要請を受け、現在敷地からの移転工事として、平成17年度から2カ年で実施するものです。移転を契機に、芸術系統と地元産業に対応した国際コミュニケーション・情報ビジネス系列に特色をもつ男女共学の総合学科設置校として平成19年4月の開校に向け、今年10月から工事に着手しています。なお、基本設計を平成15年度、実施設計を平成16年度に実施しています。

＜総合学科に関わる教室＞

クラス数	18クラス(1学年6クラス)[全学年]
特別教室等	コンピューター室、国際経済実習室、プレゼンテーション室、介護実習室、 語学コミュニケーション実習室、セミナールーム、メディアホール

2. 建設工事の概要

建設地	豊田市御立町地内		
敷地面積	41,781 m ²		
構造規模	管理教室棟	鉄筋コンクリート造地上3階建	5,847.72 m ²
	普通教室棟	鉄筋コンクリート造地上2階建	2,445.22 m ²
	体育館等	鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造地上2階建 (体育館・武道場・プールを南北に平面的に配置)	2,580.79 m ²
	その他施設	(弓道場、屋外クラブ室、屋外器具庫、自転車置場等)	1,024.83 m ²
延床面積	11,898.56 m ²		
工期	平成17年10月～平成19年2月(運動場、植栽工事を17年度末発注)		

3. 施設の設計について

(1) 計画のコンセプト

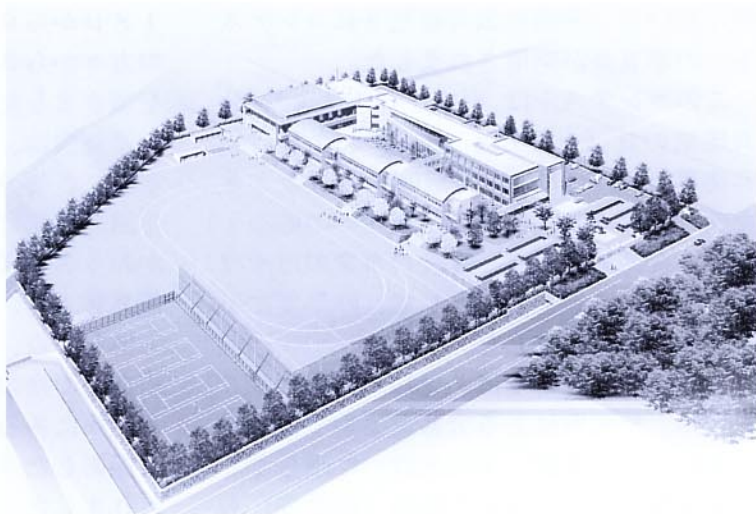
建物配置は、人工芝を施した中庭に面して、1階はウッドデッキ2階はバルコニーがある普通教室棟から左回りに、渡り廊下棟(1階ピロティの2階建)、管理教室棟(創造的学習や交流を促す全面吹抜けのメディアホールと全ての特別教室を有機的に計画)、武道場・体育館(中庭側に向けて1、2階とも開放廊下)と一巡できる配置としています。動線の短縮化とともに中庭、メディアホールを中心とする一体的な空間形成を図り、さまざまな交流や学習と創造的な活動に対して、柔軟かつ高度に対応できる建築計画としています。また、2階建のボルト状屋根の普通教室棟は、2階建6クラス1学年を1ブロックとして各々吹抜けのある昇降口を設け、3ブロックを少し雁行的に配置することによって、空間の豊かさを創出しています。

これらは新校舎としての象徴的な景観をつくりだすことに寄与しています。

(2) 配慮事項

①ユニバーサルデザインの配慮

屋内、屋外の段差解消を図るスロープや多目的トイレ、視覚障害者誘導ブロックを始めエレベーターの設置、車椅子に対応する受付カウンター(高さ 750 mm)、洋風便座の積極的な採用、玄関の自動扉などだれもが使いやすい学校としています。



②環境への配慮

節水を考慮し、雨水を再利用するための雨水貯留槽(70m³)を設置しています。

建物周辺の舗装は透水性アスファルトを採用し、また、運動場敷地は周辺の植栽帯より20センチメートル下げ、豪雨時の雨水抑制機能を持たせています。

省エネルギー対策として、庇、すだれ、ルーバーによる日射の抑制や、管理教室棟の中廊下に光庭を設けるなど効果的な自然採光や通風を確保し、省電力型蛍光灯の採用や熱源機器の台数制御をしています。

また、南洋材の利用抑制と体育館内壁などに県内産木材利用を図っています。

③構造・安全の配慮

構造体の耐震性ランクはⅡ-Aとし、重要度係数Ⅰは1.25としています。

柱のフープは耐震性の高いスパイラル・フープとし、腰壁等により短柱となる部分には効果的な耐震スリットを設置しています。

スパンの大きい管理教室棟は、梁成を小さくするためPC梁を採用し、体育館の上部屋根は、軽量化を図るため鉄骨トラスの金属屋根を採用しています。

また、手摺、柱にコーナーガードを設置し、床材は弾力性があり滑りにくい仕上げ材料を選定して安全性を確保しています。

防犯上の配慮として、学校敷地周辺及び正門の正面に当たる中庭の東側にもフェンスを設置し、事務室は正門を監視できる位置に配置しています。

④建物のライフサイクルの配慮

設備配管は、共同溝など配管スペースを十分に設け、メンテナンスと将来の配管の更新を容易にしています。また、OA対応のタイルカーペットを事務室や職員室を始めコンピューター室、国際経済実習室、語学コミュニケーション実習室に採用しています。

屋根は勾配屋根とし、耐久性の高いガルバニウム鋼板を採用し、メンテナンス費用の低減化を図っています。また、耐候性、耐久性の高い防水形吹付タイル RE(複層仕上材)及び磁器質タイルを採用してコンクリートの中酸化抑制を図っています。

「中部の公共建築 写真コンテスト」 入選作品決まる

10月20日（木）にKKRホテル名古屋において「中部の公共建築写真コンテスト」の審査会が開催されました。

このコンテストは、平成15年度より「公共建築の日（11月11日）」および「公共建築月間（11月）」が制定されたことを受け、広く国民に官公庁施設への関心・理解等を深めて頂き、今後の事業の円滑な推進を図ることを目的として、昨年度に引き続き実施されました。

写真の対象としては、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県にある公共建築物で官公庁の建物（行政施設・文化施設）に限らず一般多数の方が利用する建物（駅舎等）も対象としました。特に、今年度は「愛・地球博」が開催されましたので会場内の各パビリオン等についても募集しました。

コンテストの応募期間は平成17年7月18日から9月30日としており203人の方々から576作品もの多数の応募作品を頂きました。

審査会は、写真家の^{たくまたかお}詫間喬夫氏を委員長として、写真家の^{みうら まこと}三浦 誠氏、知立市文化館芸術総監督・演出家 ^{いよだせいこう}伊豫田静弘氏ほかの5名の審査員により厳正に行われ、最優秀賞1点、万博優秀賞1点、優秀賞3点、万博賞3点、入選10点を決定し、名古屋市在住の^{なすのちあき}奈須野智現様から応募頂いた、名古屋市にある東山動植物園とスカイタワーを撮影した「恐竜現わる」が最優秀賞に選ばれました。

受賞作品は、（社）公共建築協会のホームページに掲載されるほか、中部地方整備局のホームページにも掲載いたします。



最優秀賞 「恐竜現わる」 奈須野智現



万博優秀賞 「競 演」 丹羽明仁

公共建築の日記念事業 講演会

11月26日（水）に静岡市・静岡県公共建築推進協議会の主催で第1部はエッセイスト山村レイコさんがスローライフをテーマに講演されました。スローライフは、こだわりをもつことで食べ物は自ら作り、住ま



「レイコ流！スローライフのすすめ」いにもこだわりを持ち、ログハウスを建てられた事や内装などで自分たちでできることを造ったりした事を紹介されました。

第2部は静岡県で発行を予定している「静岡県の建築探訪」を担当されている本波氏が静岡県内の優れた建築物を紹介されました。

★★★営繕ホームページへは★★★

<http://www.cbr.mlit.go.jp/>

編集委員 岩月 稲垣 北原 加藤
福山 杉山 細川